

敷地内浸潤散水処理資材

# タコガード

家庭用浄化槽後処理用

施工要領書

2015年10月版



大成工業株式会社

<http://www.taisei-kg.co.jp>

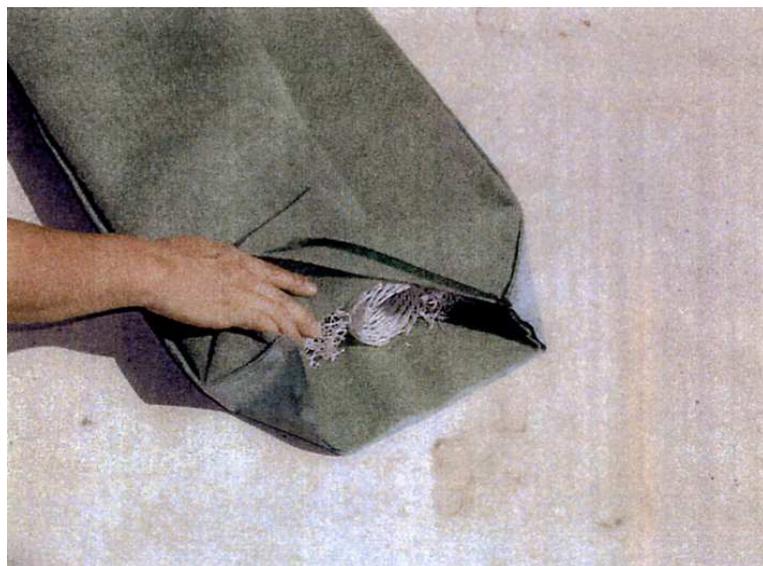
## タフガード接続要領

土壌処理装置でメインとなる資材のタフガードとFRP製専用継手の接続方法をご説明します。



### 用意するもの

- タフガード本体
- FRP製継手
- カッターナイフ
- マーカーペン
- 接続用防蝕テープ 50mm 幅



不透水シートをカットします。

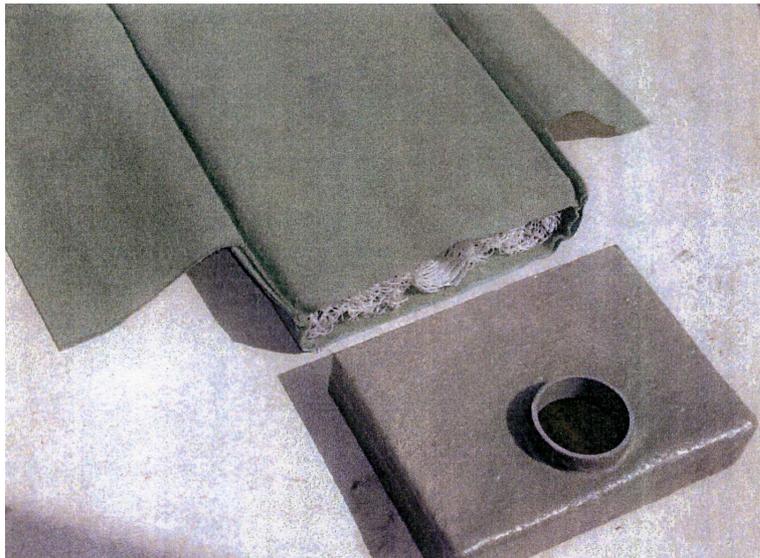
### 準備（1）

納品されたタフガード及びFRP継手を開梱します。

タフガードを取り出し平坦な場所へ仮置きします。

納品時にタフガードが折れ曲がった状態で梱包されている場合は真っ直ぐに伸ばしておきます。

タフガードの外側の不織布が内部の構造体より長くなっていますので内部の構造体と面一になるように不織布及び



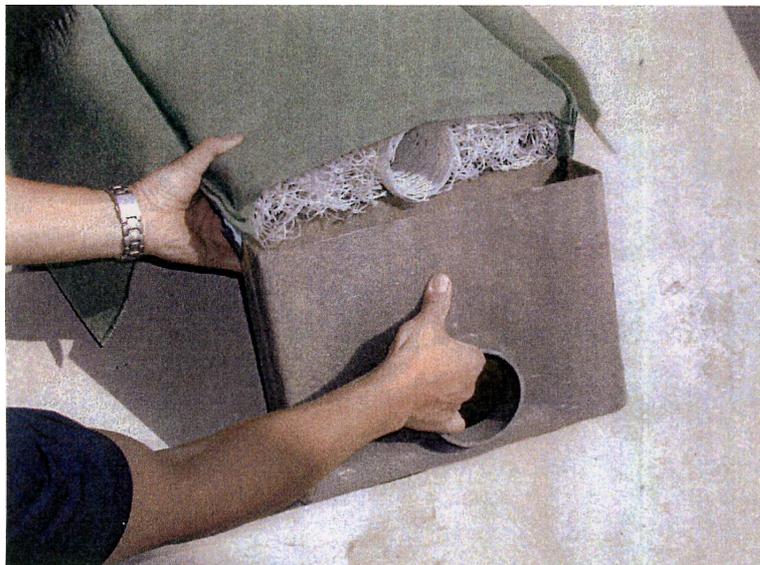
### 接続（１）

FRP専用継手を用意します。

継手の種類と取り付け場所

端末部：No.1 or No.5

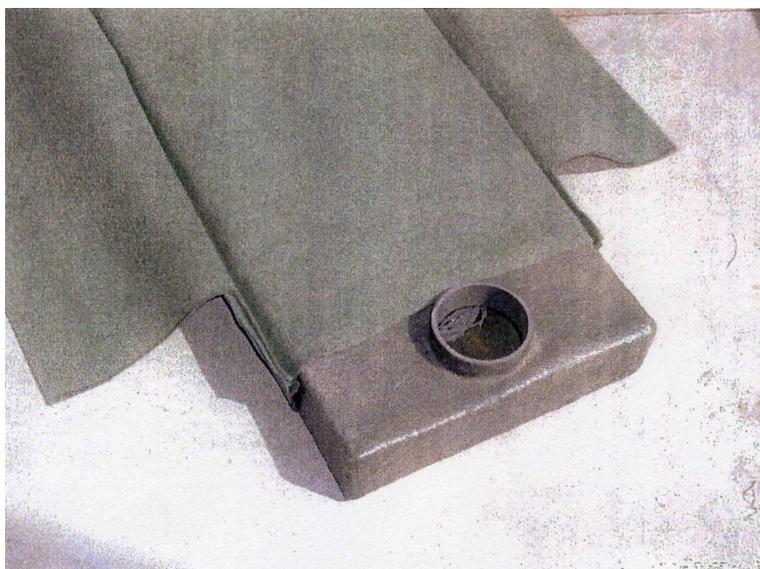
中間部：No.2 or No.4



### 接続（２）

継手の下部をタフガードの構造体と不織布の間に差し込むようにし、引っ掛かりがないことを確認したら上部を同じように納めていきます。

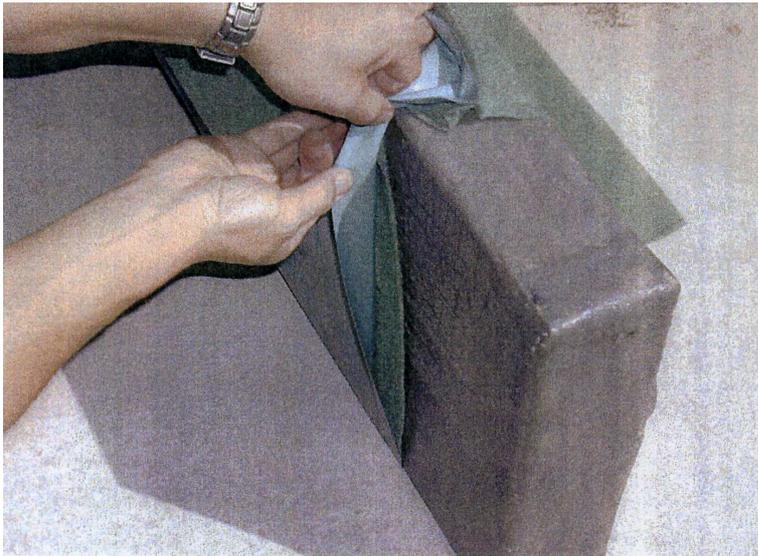
この時、中の構造体の端部が継手に引っ掛かり入りづらいことがあります。1ヶ所ずつ丁寧に外していけば、すっぽりときれいに入ります。



### 接続（３）

差し込んだ状態です。

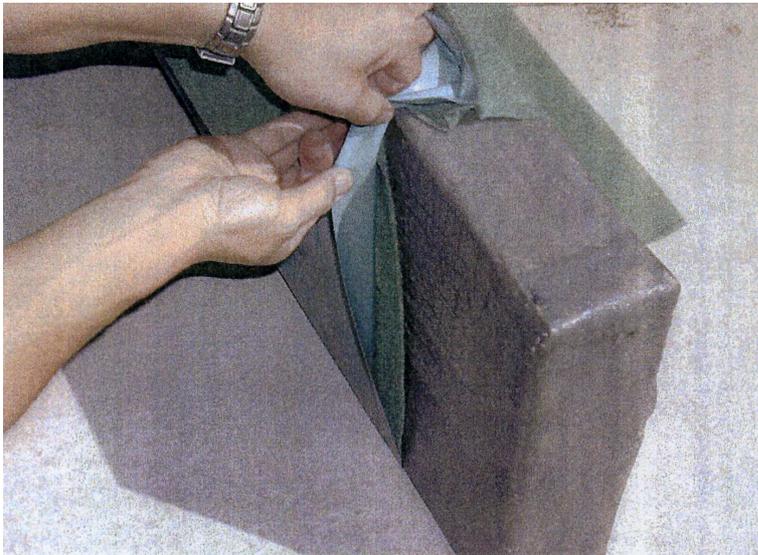
差し込むときにタフガードの上下を間違えないように注意してください。不透水シートのある側が下面です。



### 上手く入らないとき（１）

上手く入らない場合、写真のように不織布がFRP継手に引き込まれていることが殆どです。

継手を少し戻して不織布を引っ張ってやると綺麗に入ります。



### 上手く入らないとき（２）

継手が納まりにくい場合でも、タフガードの縫製の糸は絶対に切らないでください。

万が一切ってしまった場合には、防蝕テープを巻きつける際に必ず塞ぐようにしてください。

隙間があると使用中にタフガード内部に土砂が流入、堆積し目詰まり等の思わぬトラブルを引き起こすことがあります。

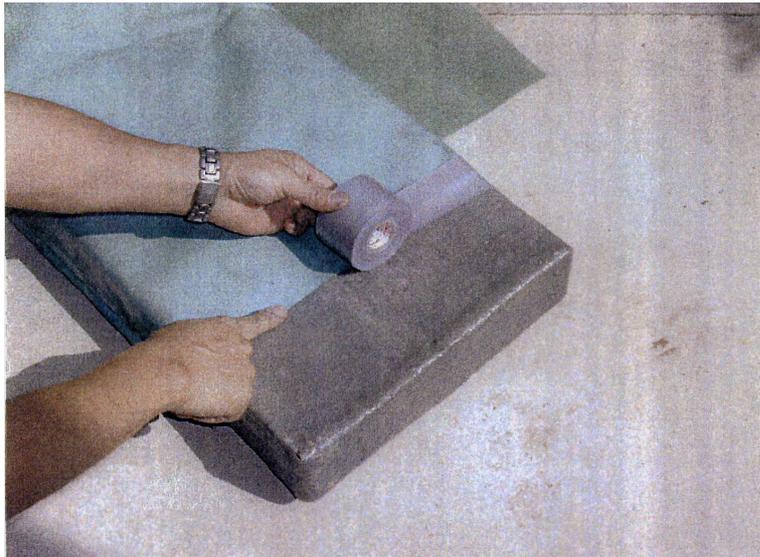


### 接続（４）

継手とタフガードの隙間を接続用の防蝕テープでしっかりと塞ぎます。

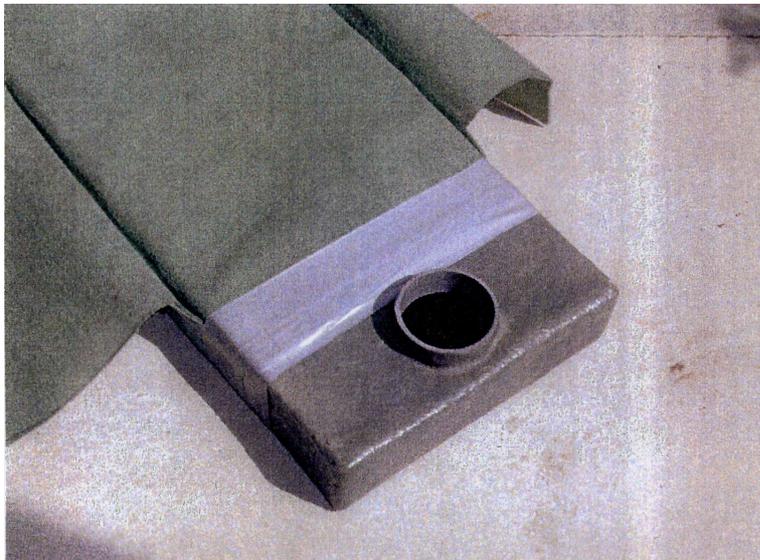
テープの巻き始めにタフガードの両端を絞り上げるようにして、下部の密着度を高めてください。

下面に波を打ったようなシワがあると漏水し、本来の機能が発揮できません。



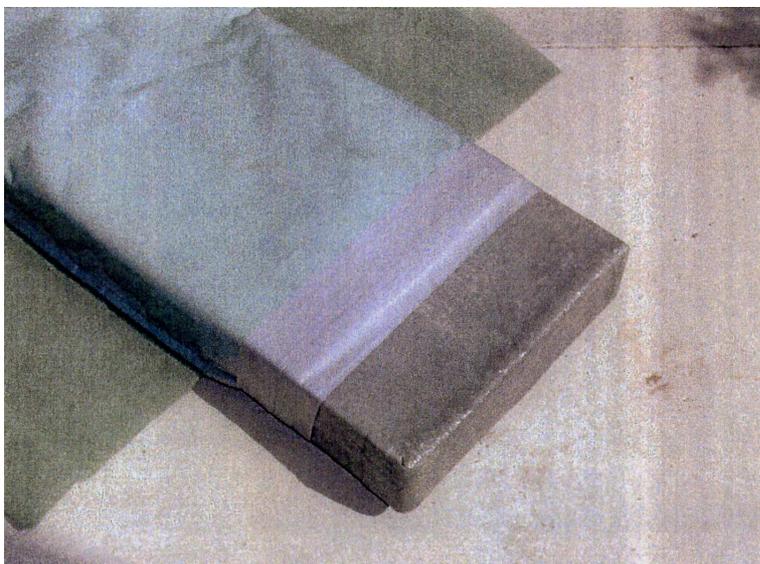
### 接続 (5)

指で指している部分にシワが出来ないように注意して、しっかりとテープで隙間を塞いでください。



### 接続 (6)

接続完了 (上面)



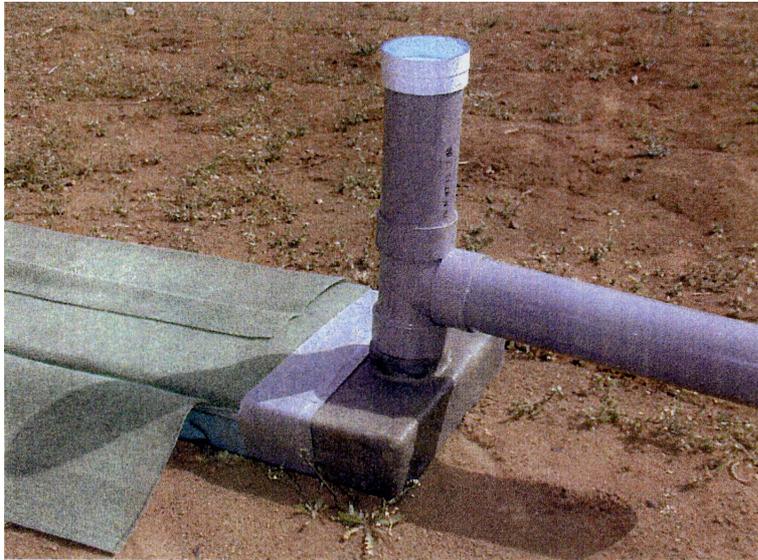
### 接続 (7)

接続完了 (下面)



### 施工時の工夫

翼片を切り取った時の端材を継手のソケットに差し込んでおくと施工中にタフガード内部に土砂が入るのを防ぐことができます。



### 配管（１）

配管イメージ図  
（FRP継手 No.1・流入部）



### 配管（２）

配管イメージ図  
（FRP継手 No.1・流末部）

## 土壌処理装置施工要領

土壌処理装置の施工方法をご説明します。  
重要な注意事項などいくつかの点に注意しながら施工してください。

### 用意するもの

○スコップ    ○ジョレン    ○水系    ○レベル式  
○転圧プレート    ○作業用水

### 作業上の注意事項

通気性土壌は納品時の含水率によって非常にホコリが立ちやすい場合があります。

作業される方は、防塵眼鏡、マスクなどを着用してください。

汚れに関しましても、製品の特性上黒く汚れが付着し洗濯しても落ち難くなります。

予めご了承ください。

また、近隣に民家などがある場合には、事前にご説明をしてご了解をいただき、作業当日には洗濯物など外部に干さないようにご協力をお願いしてください。

作業前後（作業中を含む）に近隣とトラブルが起きましても、弊社は一切の責任を負いかねますので予めご了承ください。

**※弊社指定の通気性土壌を使用しない場合、弊社の保証はありませんのでご注意ください。**



### 掘削

一般的なやり方・墨だしを行い規定の高さ（標準値 GL-600mm）まで掘削します。

この後、床付けを行いますが、この段階でシビアなレベル出しは必要ありません。（±20mm 程度）

勾配 ±0



## 埋戻し

通気性土壌の1次埋戻しを規定の高さ（標準値  $GL-300mm$ ）まで埋戻します。

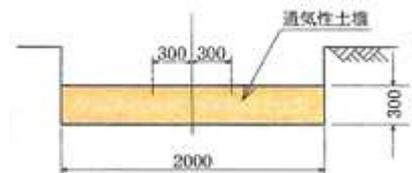
この時、ある程度散水をすると、後の作業が容易になります。



## 転圧

タフガードから据付する場所へ（中心線から左右それぞれ  $300mm$  幅）、転圧プレートをかけます。

人が踏んで凹んだり崩れたりしない程度まで転圧してください。（約3往復）



## 床付け

締固めを行った幅で床付けとレベル調整を行います。

この時の誤差は $\pm 5mm$ 程度を目標にしてください。

勾配  $\pm 0$



## タフガード仮置

タフガードを仮置きし、両側の翼片をたたんでおきます。

タフガード継手端部から占有面積の境界線まで距離が図面上 1000mm と記載されていますが、継手部分のロスをここで吸収するので実際には 1000mm 以下になります。

左右均等に調整してください。



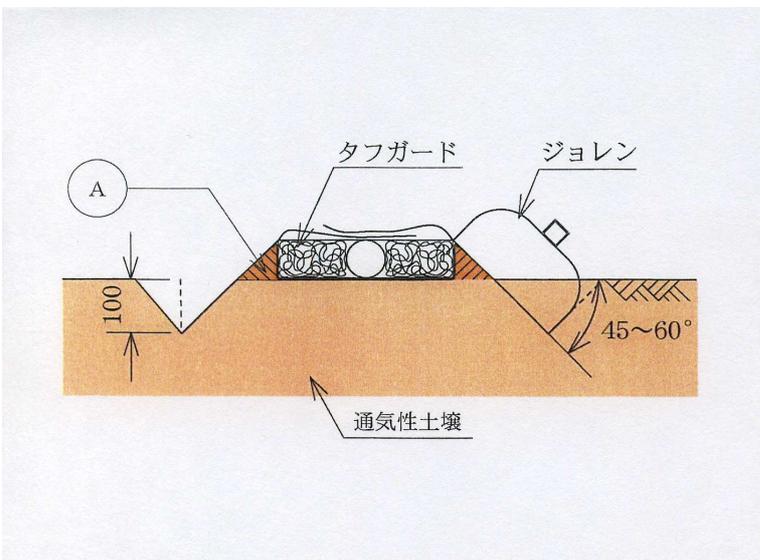
## 設置前段取り

タフガードの翼片を埋設する作業です。

写真のようにジョレンを使うと作業が容易に行えます。

別図 1 のようにジョレンの刃先を水平より 45~60° の角度にして掘り込みます。

(別図)



## 別図 1

Aの部分に関しては、ジョレンを図のような形に固定して土壌を掘り込むと半ば自動的に擦り付けられていきます。

掘り込みの開始部分などでは不十分な場合がありますので、その際には人為的に補充してください。

また掘り込み深さは床付け面よりおよそ 100mm 以上を目安にしてください。



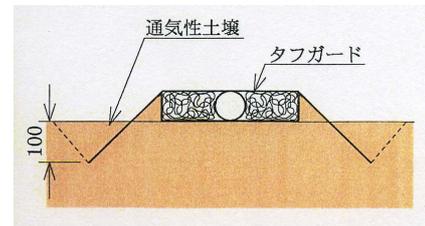
掘り込んでいく途中で少しずつ角度が浅くなってしまふことがあるので注意してください。

掘り込みが浅いとタフガードの排出能力を著しく損なう恐れがあり、目詰まりなどのトラブルを引き起こす場合があります。



### 翼片埋設

タフガードの翼片を広げ、掘り込んだ部分に沿わせるように伸ばします。先端を足先などで押さえ、タルミ等がないように注意しながら通気性土壌を被せ翼片を固定していきます。



### 埋戻し（2）

翼片を埋め込んだあと、適時配管を行いながら2次埋戻しを行います。規定の高さ（標準値 GL+100mm）まで通気性土壌を入れ、人の重さで沈まない程度に転圧します。散水しながら作業を行うと土壌が落ち着き作業が容易になります。

タフガード敷設後は絶対に重機等の重量物が乗らないようにしてください。



## 整地

整地を行います。  
使用開始まで期間がある場合、雨や風による土壌の飛散、流亡を防ぐためにシート養生や緑化養生する必要があります。

周囲から流入水が無いか確認してください。

